

病院経営管理士通信教育

病院経営管理士現況および意識調査 — 最終報告 —



一般社団法人 日本病院会

病院経営管理士教育委員会

はじめに

日本病院会の病院経営管理士通信教育は、1978年（昭和53年）の「事務長養成課程通信教育」に始まり、43年目を迎えました。これまでに、講座名称・カリキュラムの変更を重ねながら、2009年（平成21年）には「病院経営管理士」の資格付与を開始し、今日の「病院経営管理士通信教育」に至っています。現在の卒業生数は1,100名を超え、全国の病院施設や医療関連分野で、習得した知識を活用し、それぞれの施設・部門に適応した経営管理を実践し活躍されているところです。

当初は事務長あるいは事務長候補者を対象としたものから、現在では医療技術職にも拡がり、病院全体の経営のみならず、各部門におけるマネジメントについても、病院経営に関する専門教育の必要性が増しているものと思われまます。

また、わが国の少子高齢化社会の進展や医療費の増嵩問題等を背景に社会保障制度改革、病床機能再編、医師の働き方など多くの解決すべき問題を抱え、新型コロナウイルス感染症の拡大と重なり、病院経営はますます困難化しているといえます。

そのようななか、「病院経営管理士」の資質向上により病院経営の健全化を図るため、今後の教育体制の充実、さらなる発展に繋げていきたいと考え、本通信教育の卒業生の実態調査を実施しましたので、集計結果を報告いたします。

ご多忙のなか、調査に協力いただいた病院経営管理士通信教育卒業生の皆様にお礼申し上げます。

病院経営管理士教育委員会 委員長 中 佳一

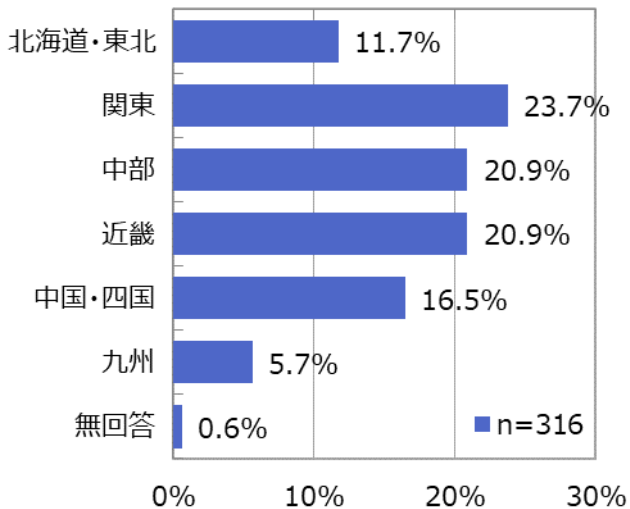
病院経営管理士現況および意識調査

最終報告 調査概要

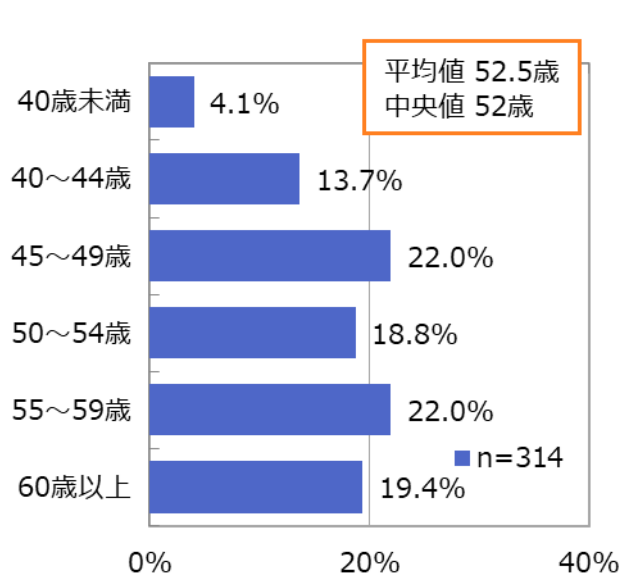
- 調査目的：病院経営管理士資格取得後における病院経営への参画状況や職責、どのような意識を持ち日々の業務に取り組んでいるかなどの実態を把握し、今後の教育カリキュラムや病院経営管理士のあり方についての検討を行い、カリキュラム等の改編を実施する。
- 調査方法：病院経営管理士通信教育ウェブサイトから調査票をダウンロードし、EメールまたはFAXにて調査票の回収を行った。
- 調査期間：2021年3月16日～4月20日
- 主な調査項目：卒業生の勤務地・勤務先、勤務および資格取得後の年数等の基本情報、現在の業務内容、経営責任に対する考え、自己研鑽、通信教育への意見・要望等
- 送付方法・件数：967件※（郵送またはメール配信）
※卒業生1,110名のうち、2021年3月1日現在で所属先もしくは自宅住所等が登録されている者
- 回答数：316件
- 回答率：32.7%

I. 2021年1月1日現在の基本情報

1. 勤務地の所在する都道府県

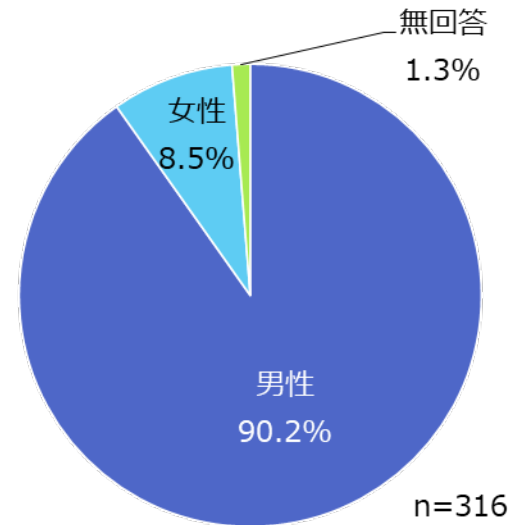


2. 年齢

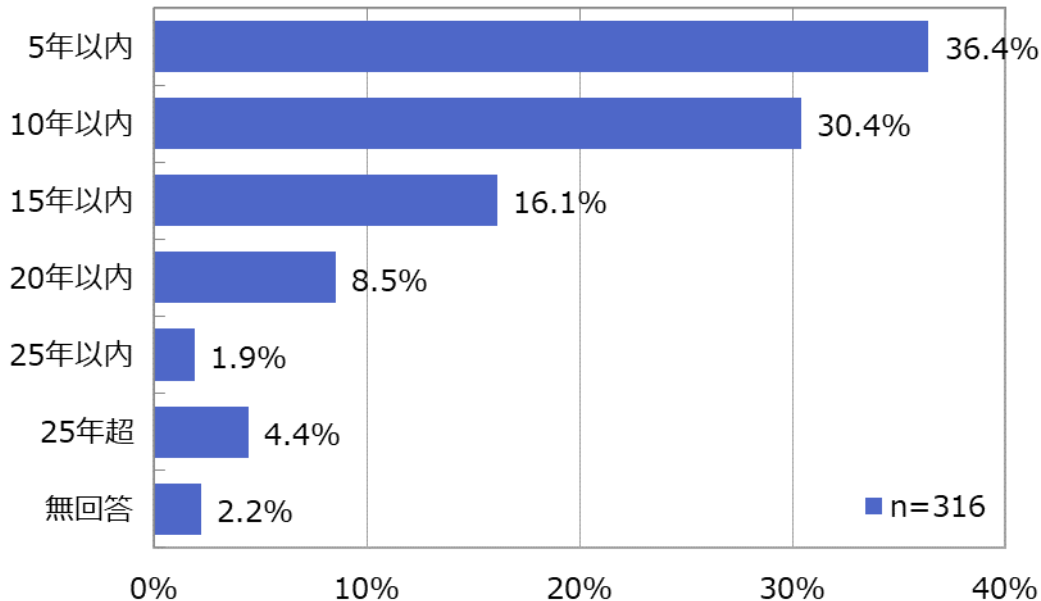


※0と無回答は集計対象外

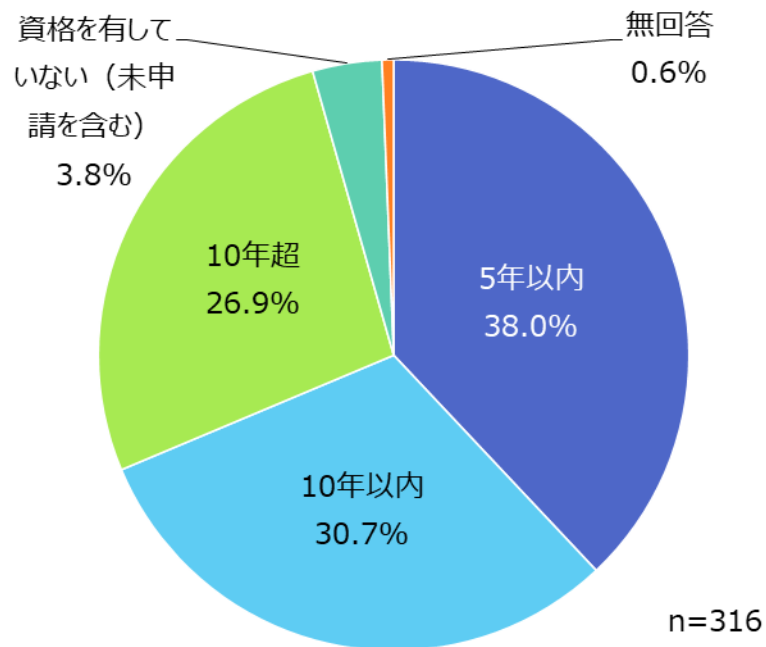
3. 性別



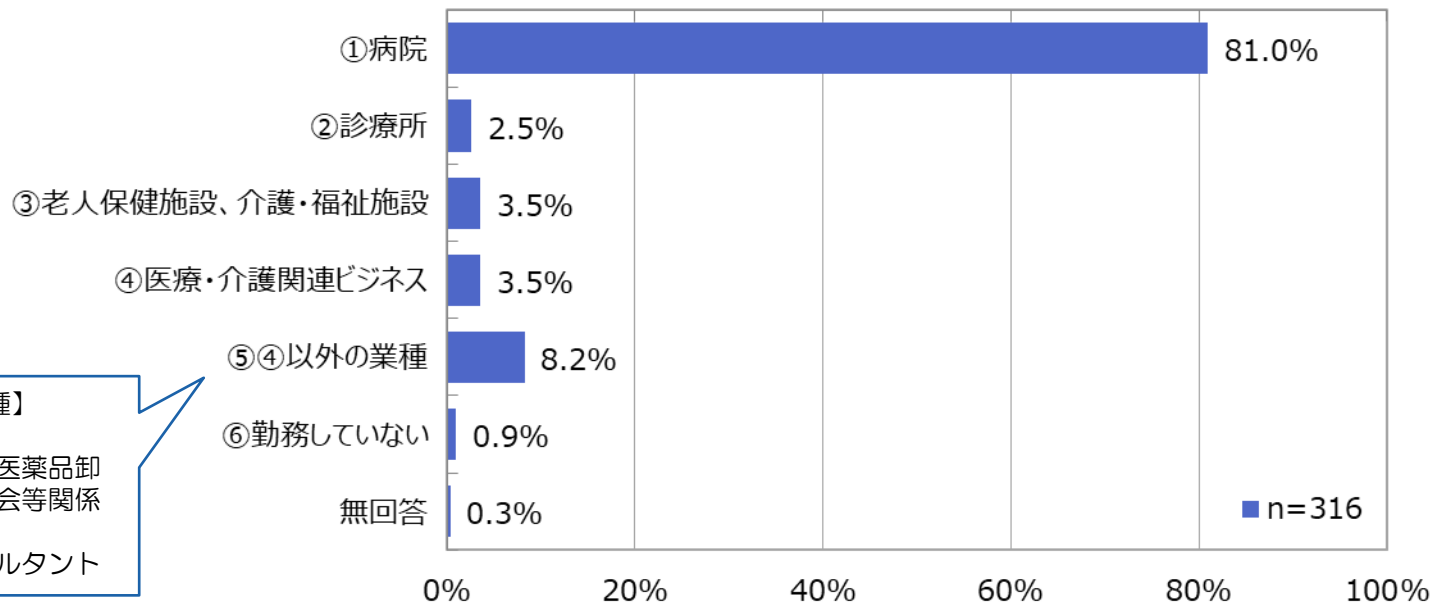
4. 病院経営管理士通信教育（事務長養成課程、病院経営管理者養成課程を含む。以下、旧課程）を卒業して何年になりますか。



5. 病院経営管理士資格（2009年より資格認定）を取得して何年になりますか。



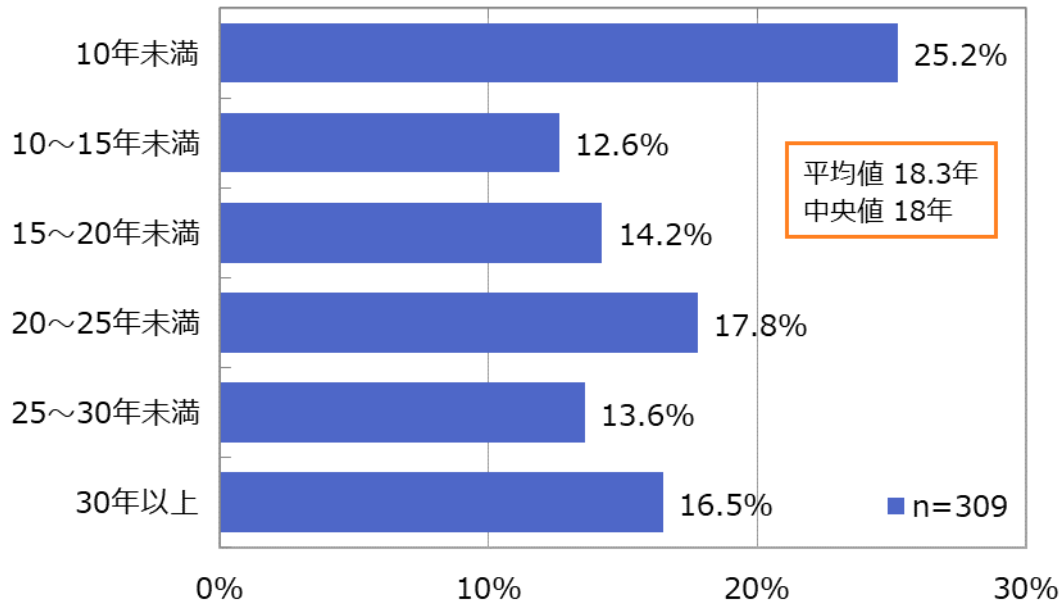
6. 現在の勤務先を教えてください。



⑤【以外の業種】

- 法人本部等
- 調剤薬局・医薬品卸
- 行政・医師会等関係団体
- 経営コンサルタント

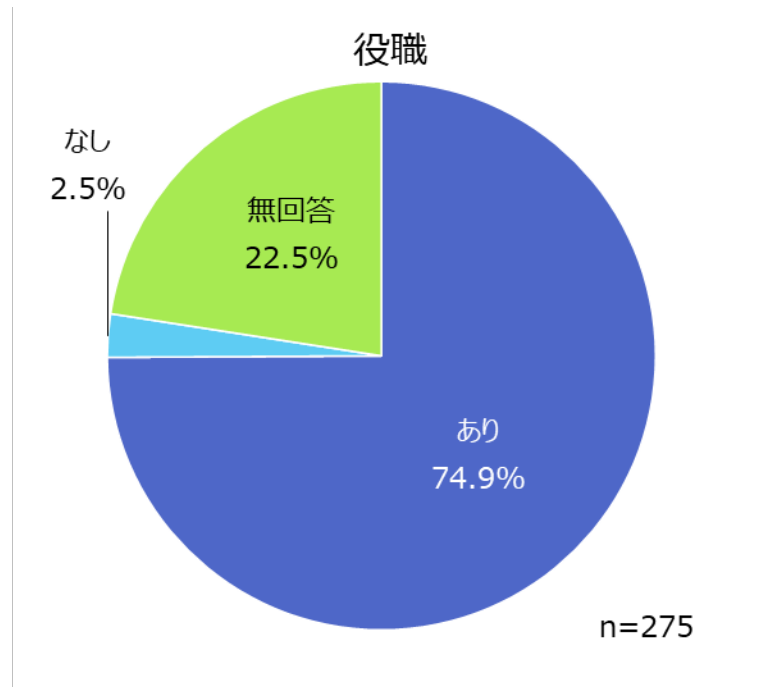
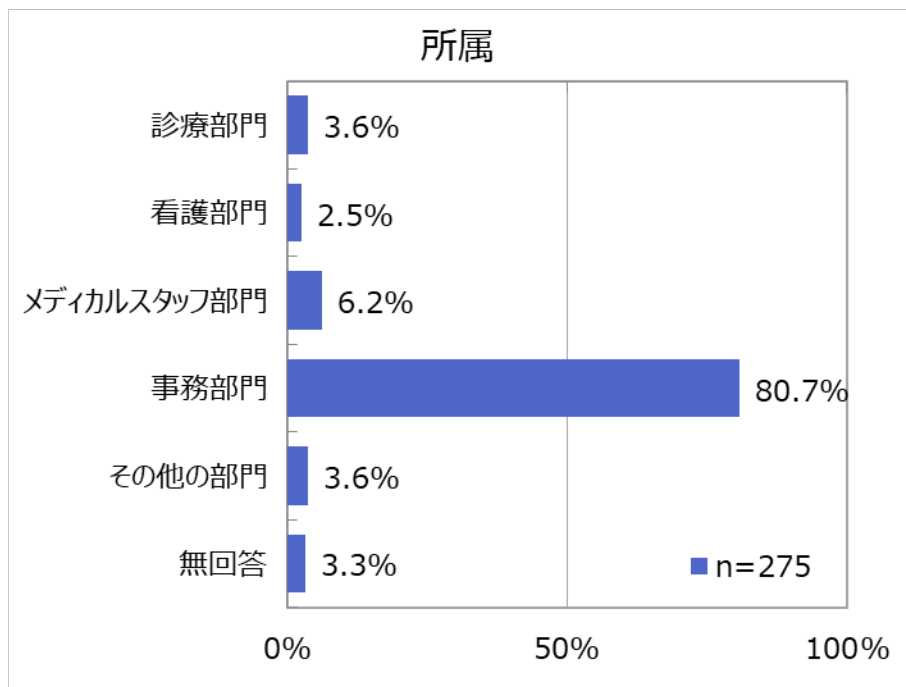
7. 現在の勤務先の勤務年数を教えてください。



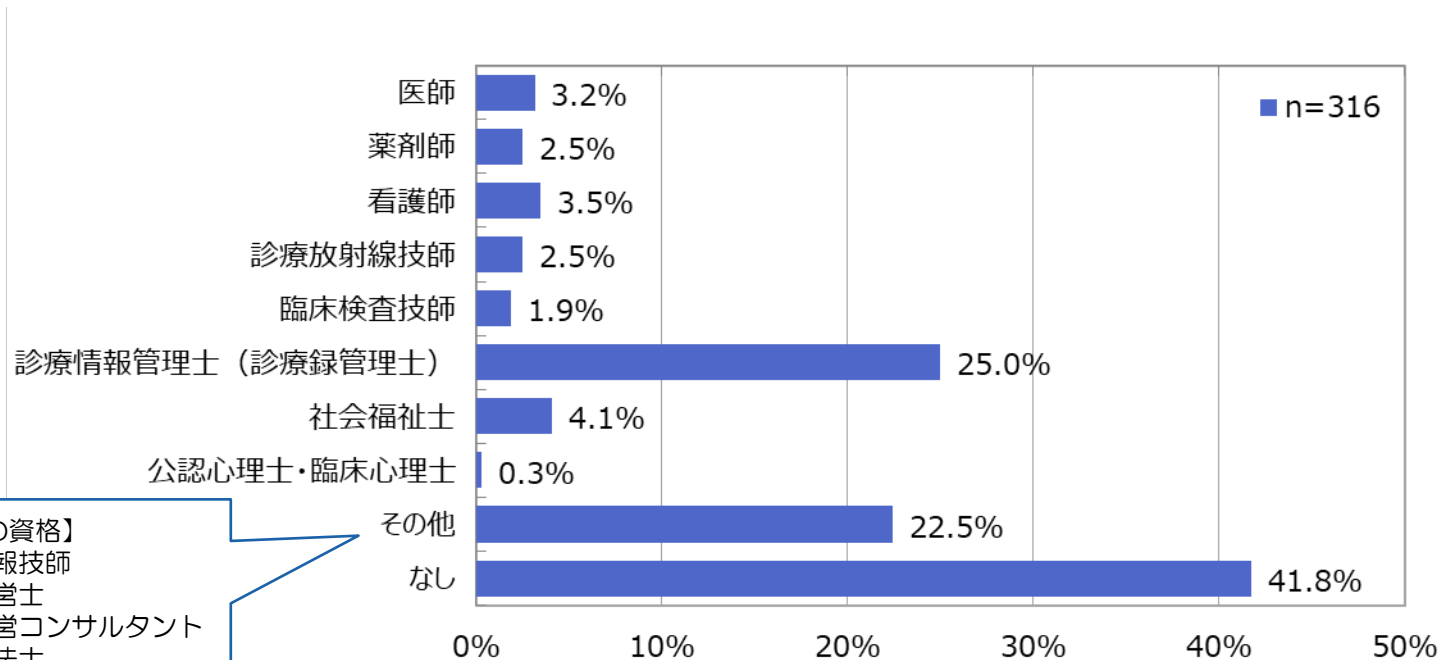
※0と無回答は集計対象外

8. 所属および役職を教えてください。

【設問6で「①病院」「②診療所」「③老人保健施設、介護・福祉施設」と回答した方のみ対象】



9. 現在、資格取得している医療関連の資格等について教えてください。
 (病院経営管理士除く、複数回答可)

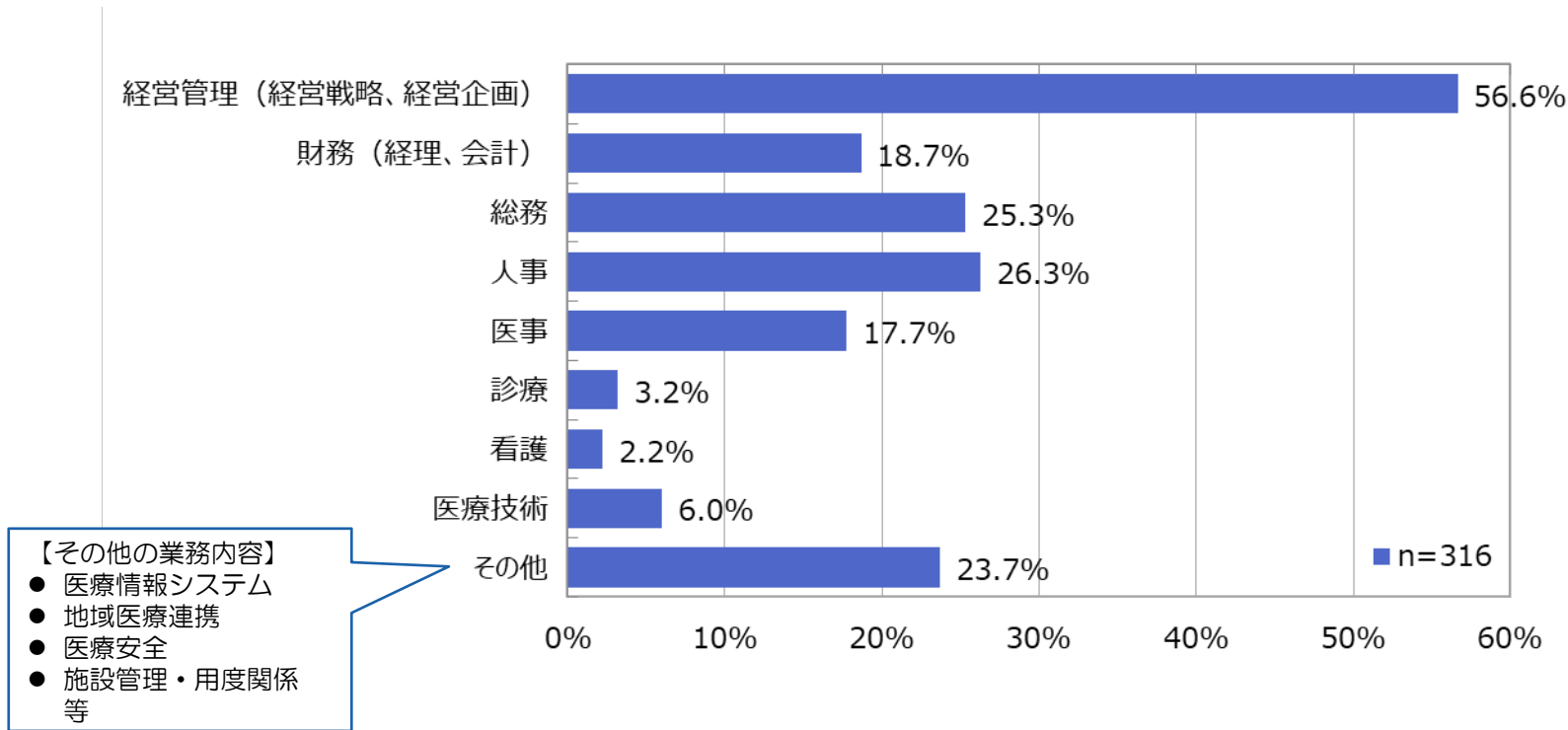


【その他の資格】

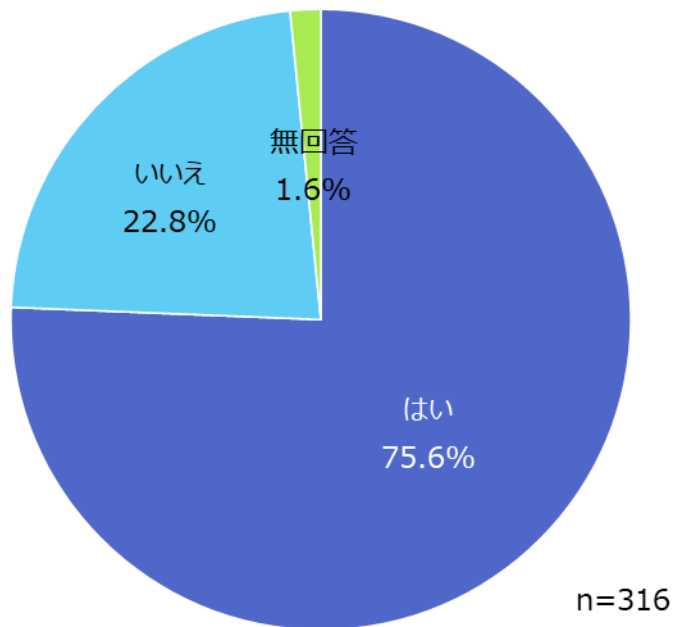
- 医療情報技師
- 医療経営士
- 医業経営コンサルタント
- 理学療法士
- 臨床工学技士
- 保健師 等

Ⅱ. 現在の業務内容

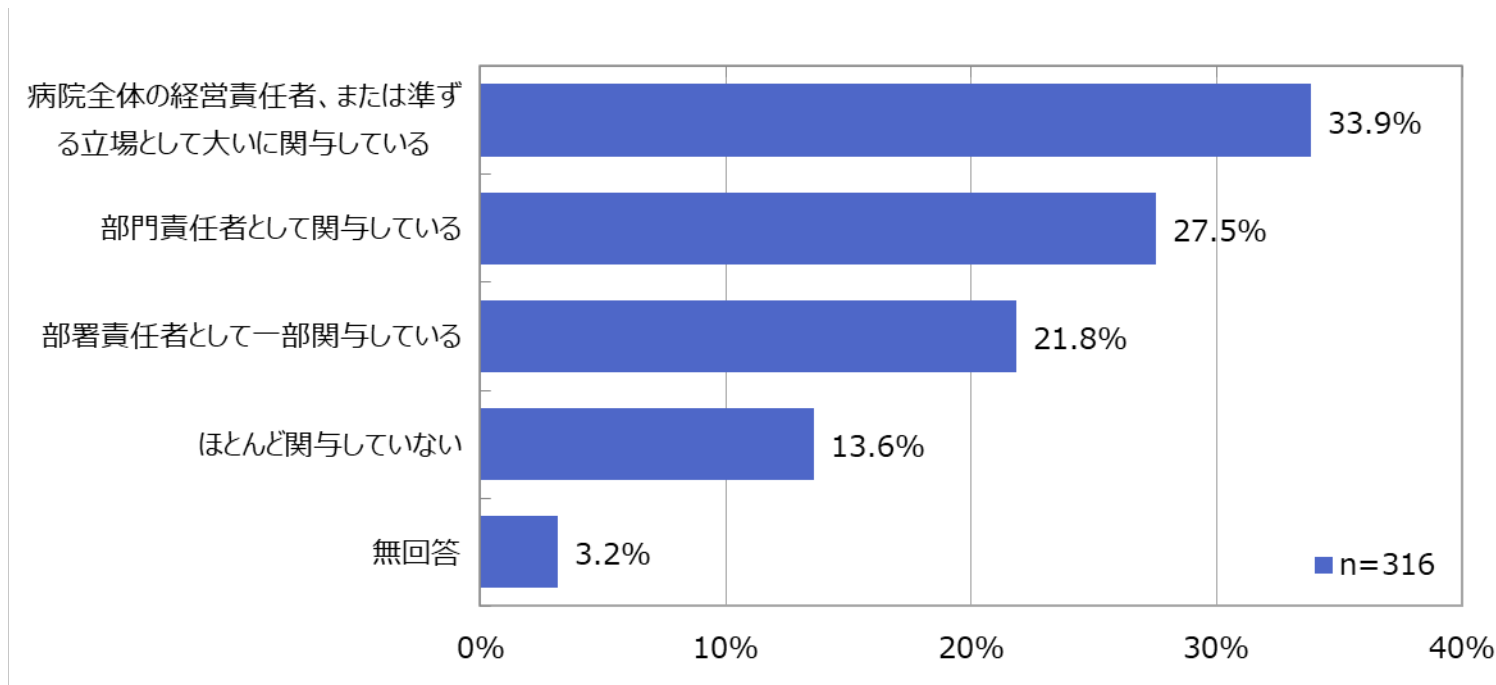
10. 現在の業務内容をお尋ねします。（複数回答可）



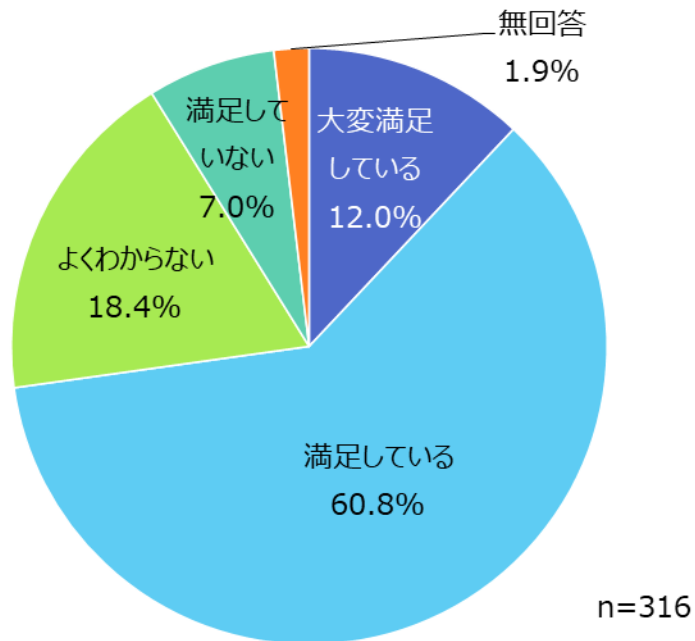
11. 病院経営に携わっておられますか。



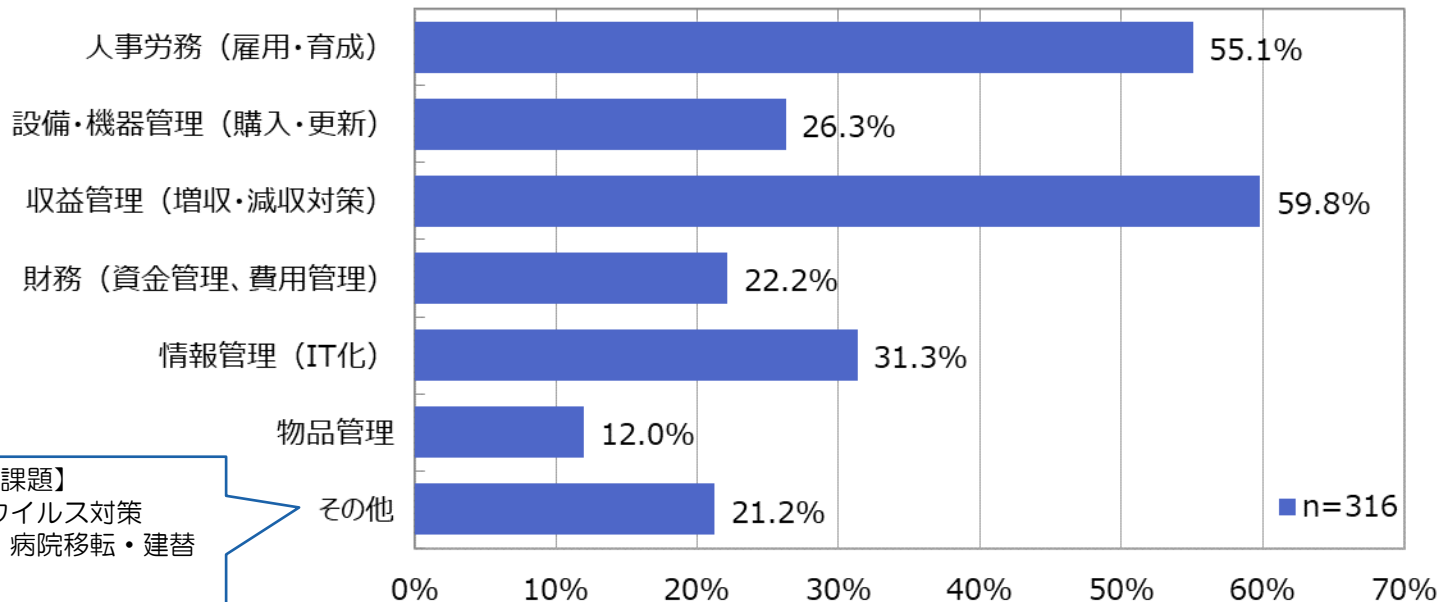
12. 病院経営に対する責任の範囲、関与の割合を教えてください。



13. 今の業務に満足していますか。



14. 現在、優先課題として取り組まれている業務は何ですか。（複数回答可）

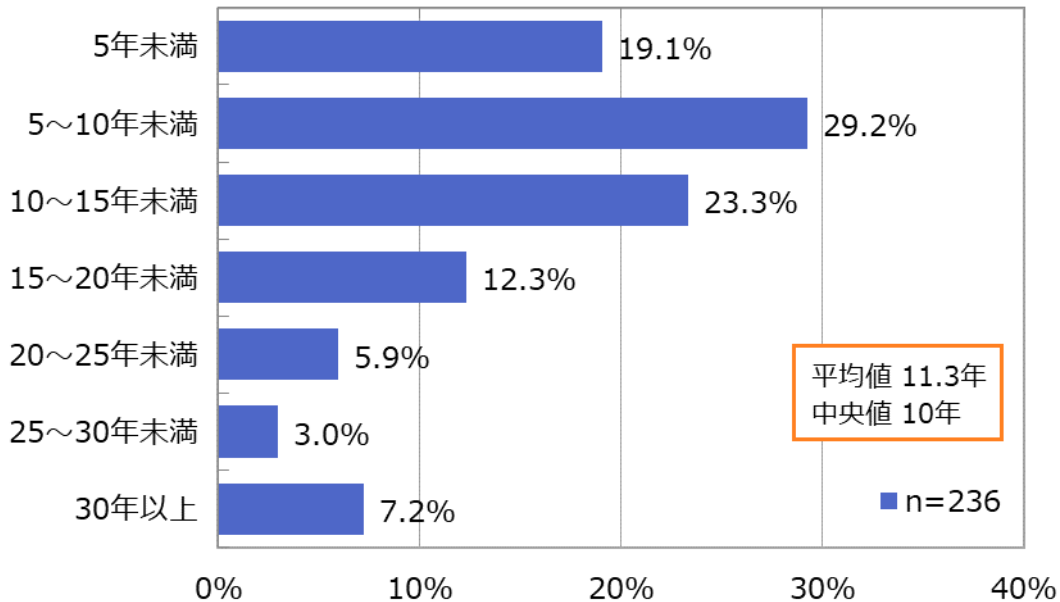


【その他の優先課題】

- 新型コロナウイルス対策
- 新病院建築、病院移転・建替
- 内部統制
- 医療安全
- 地域連携・広報
- 等

15. 病院経営に携わった経験年数を教えてください。

【設問11で「はい」と回答した方のみ回答】

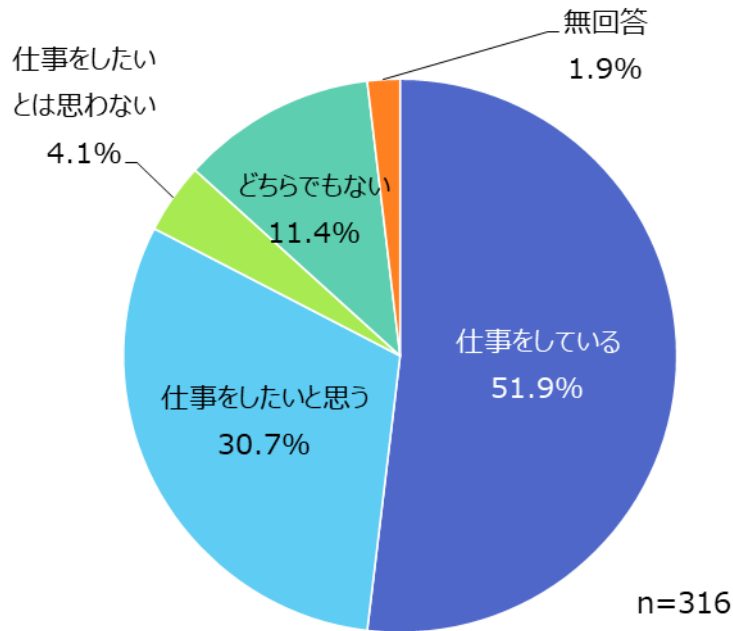


※0と無回答は集計対象外

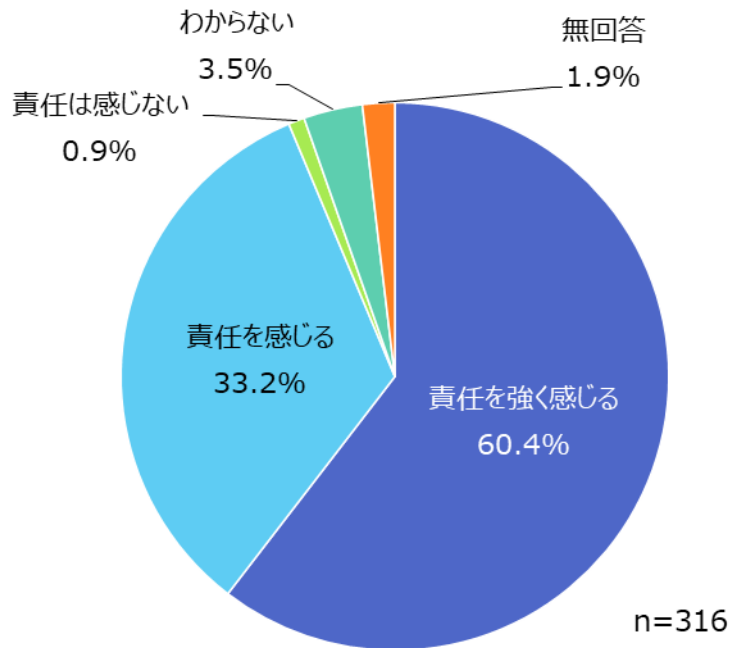
Ⅲ. 経営責任に対する考え

16. あなたは、病院の経営陣の一角として仕事をしたいと思いませんか。
あるいはその責任を感じていますか。

(1) 経営陣の一角として

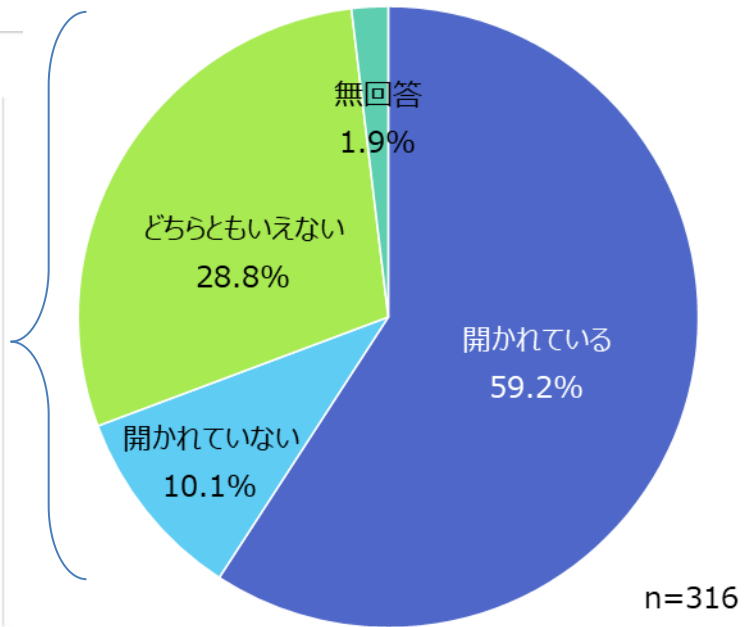
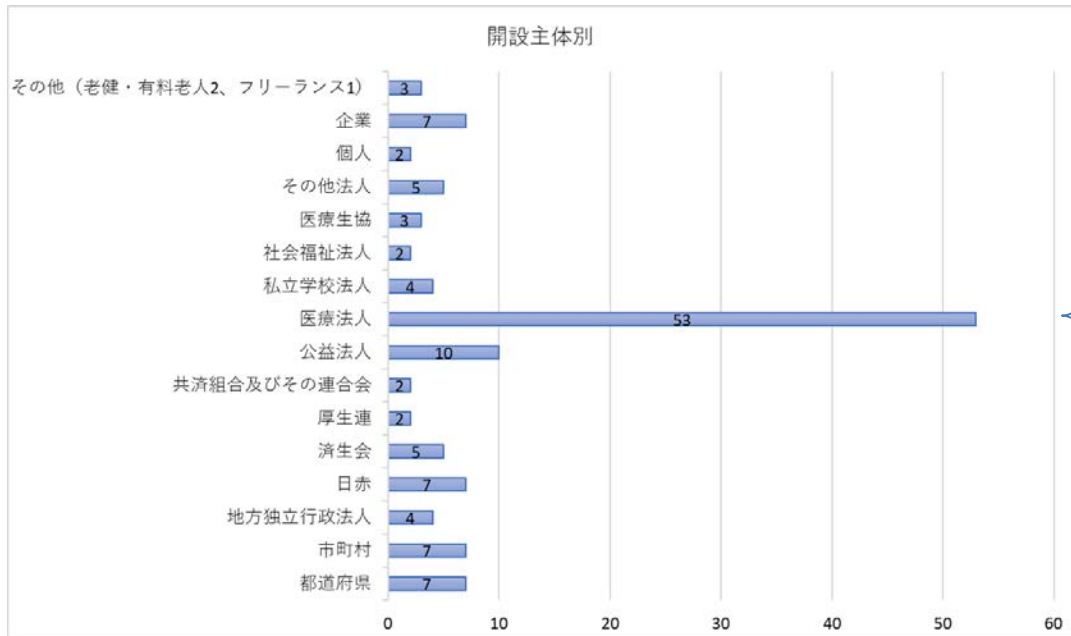


(2) 仕事への責任について



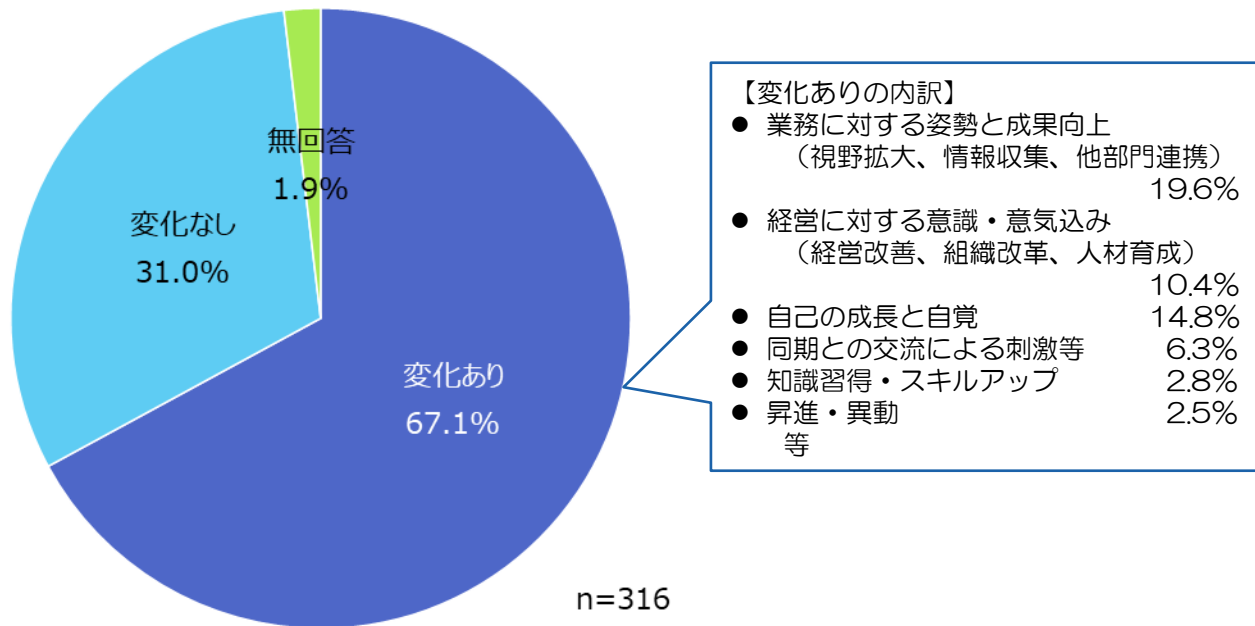
17. 経営陣への道は開かれていますか。

「開かされていない」または「どちらともいえない」と答えた方の開設主体別回答数

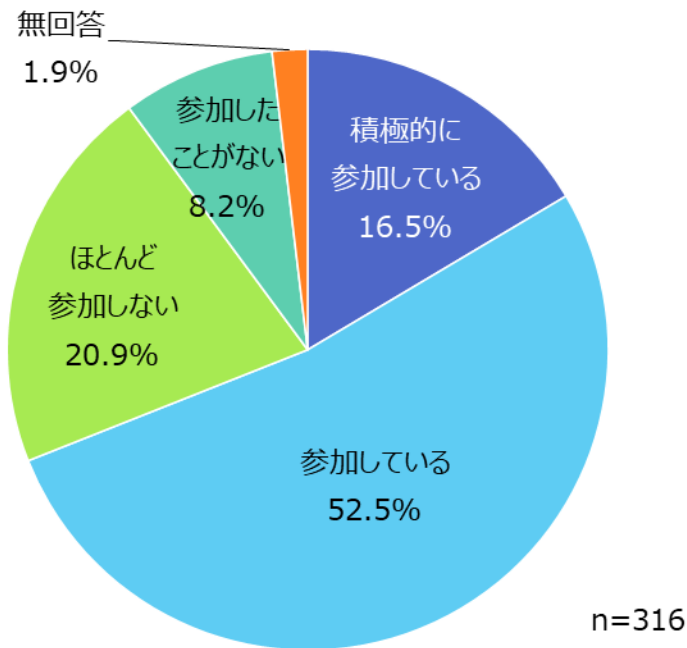


IV. 病院経営管理士としての自己研鑽等

19. 卒業（資格取得）後、仕事に対する姿勢、意気込み、取り組みに変化はありましたか。

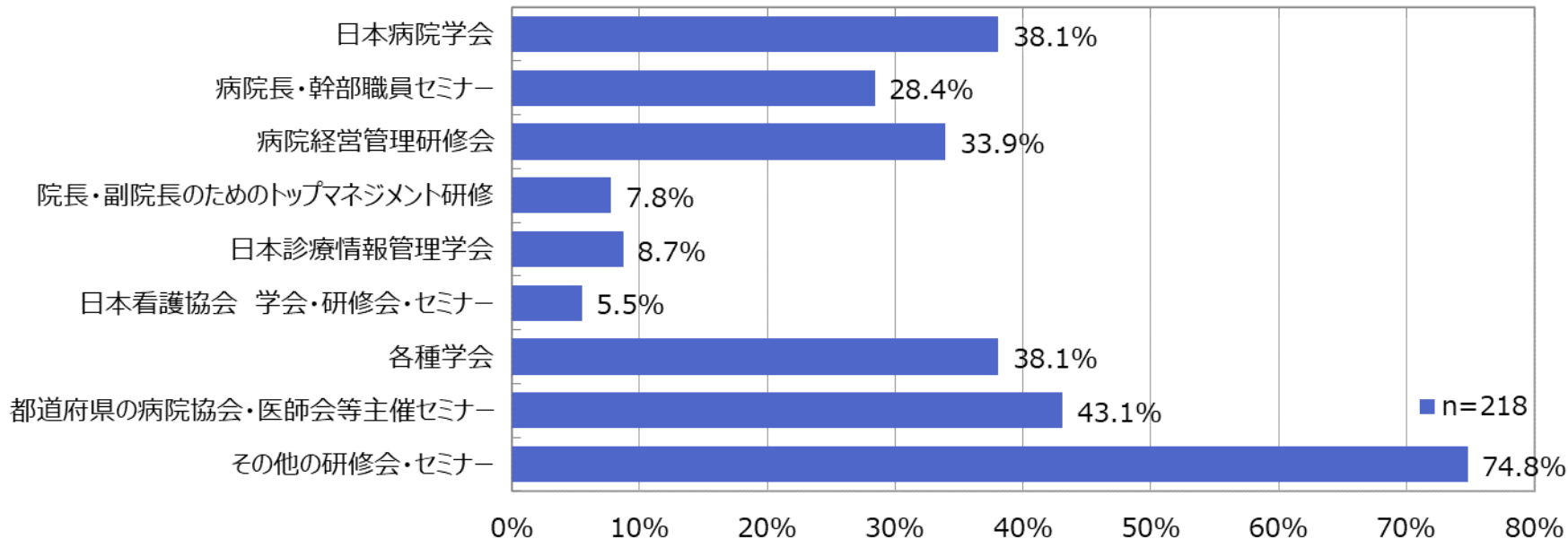


20. 卒業後の自己研鑽・スキルアップのため、病院経営に関する学会、研修会等に参加していますか。



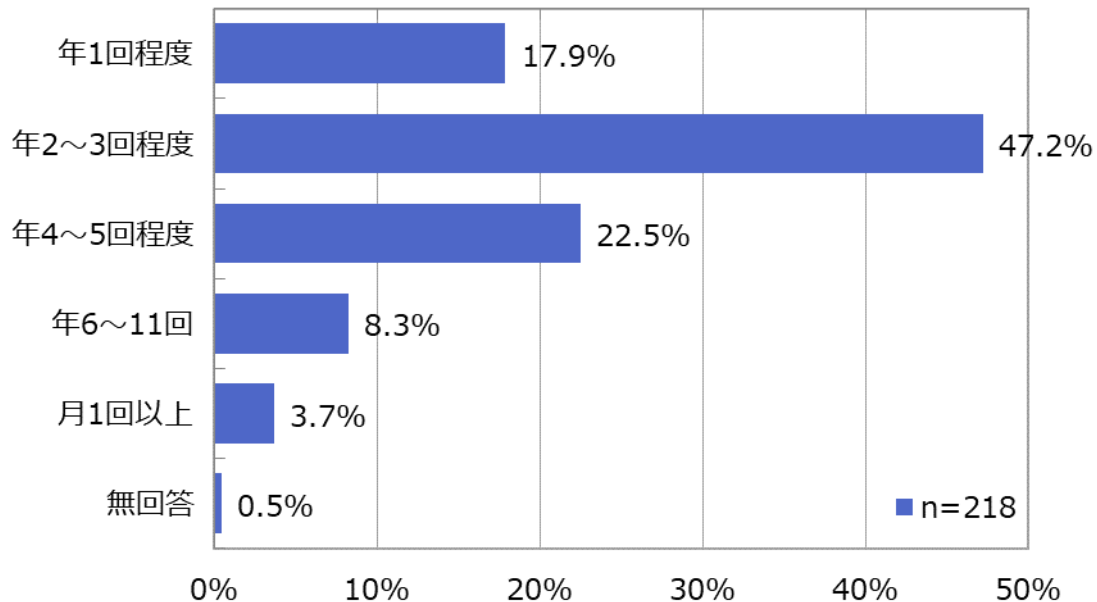
21. どのような研修会か教えてください。（複数回答可）

【設問20で「積極的に参加している」「参加している」と回答した方のみ対象】



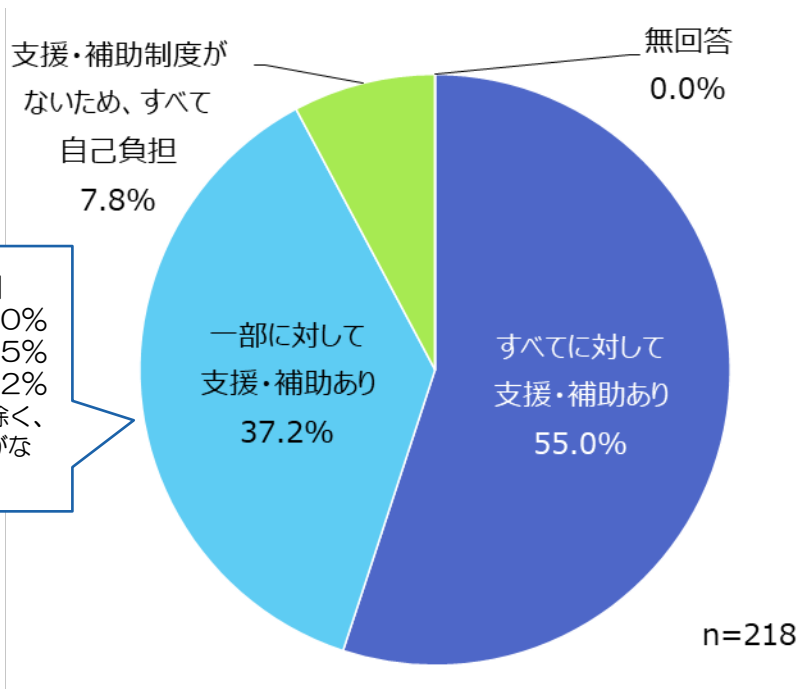
22. 参加の頻度はどれくらいでしょう。

【設問20で「積極的に参加している」「参加している」と回答した方のみ対象】



23. 自己研鑽・スキルアップにかかる費用について、勤務先からの支援・補助制度はありますか。

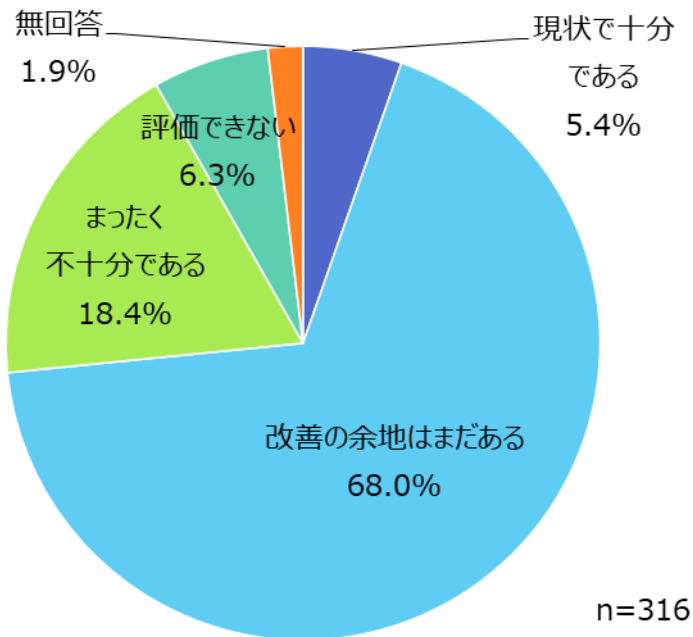
【設問20で「積極的に参加している」「参加している」と回答した方のみ対象】



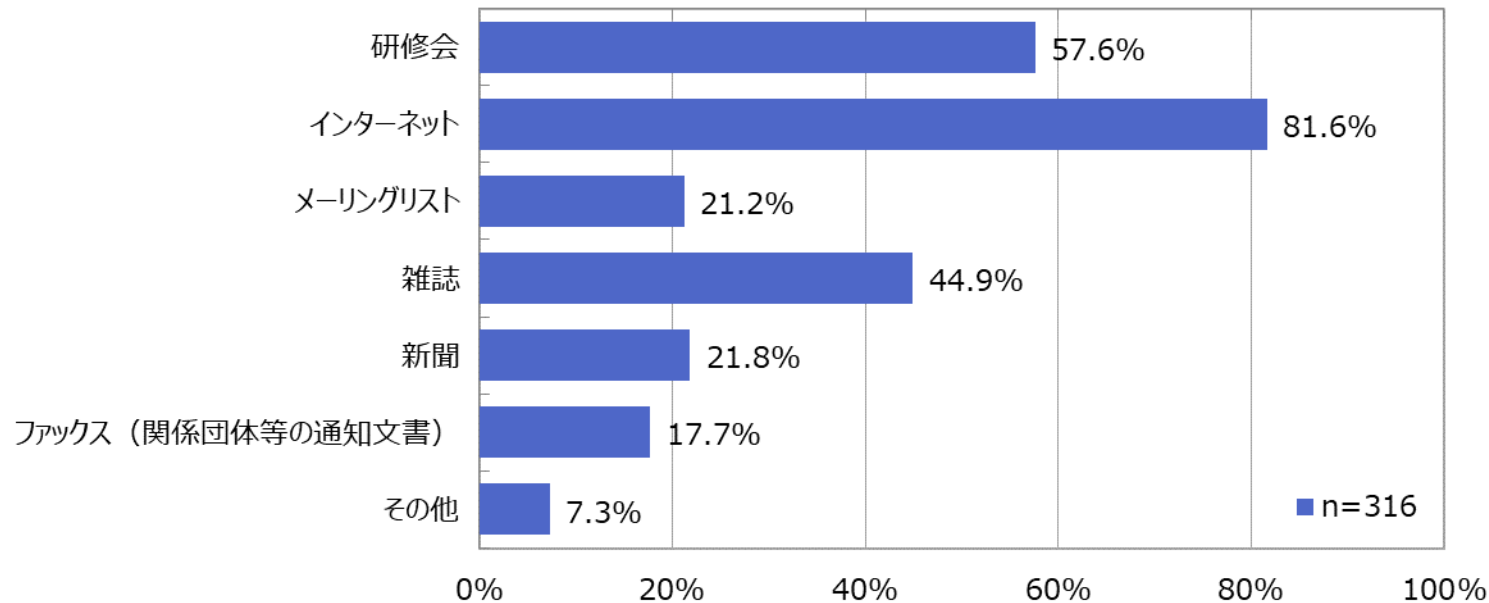
【一部に対して支援・補助ありの内訳】

- 予算内・年間上限あり 5.0%
- 業務出張等に限定 5.5%
- 学会発表のみ 3.2%
- その他（県外研修年1回、自己啓発を除く、高額研修会のみ半額補助、明確な規程がない等）

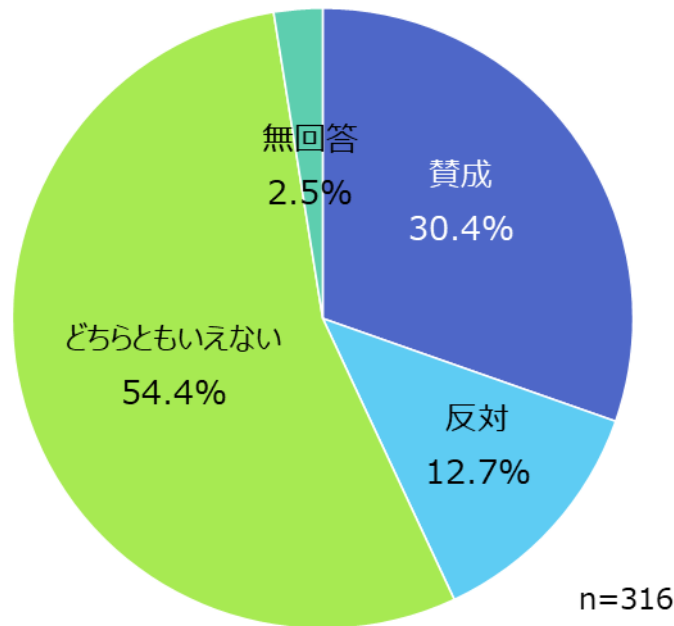
24. 病院経営管理士として、自身の業務や知識・技能向上への取り組みについての評価を教えてください。



25. 病院経営管理に関する最新情報の主な取得先について教えてください。
(複数回答可)

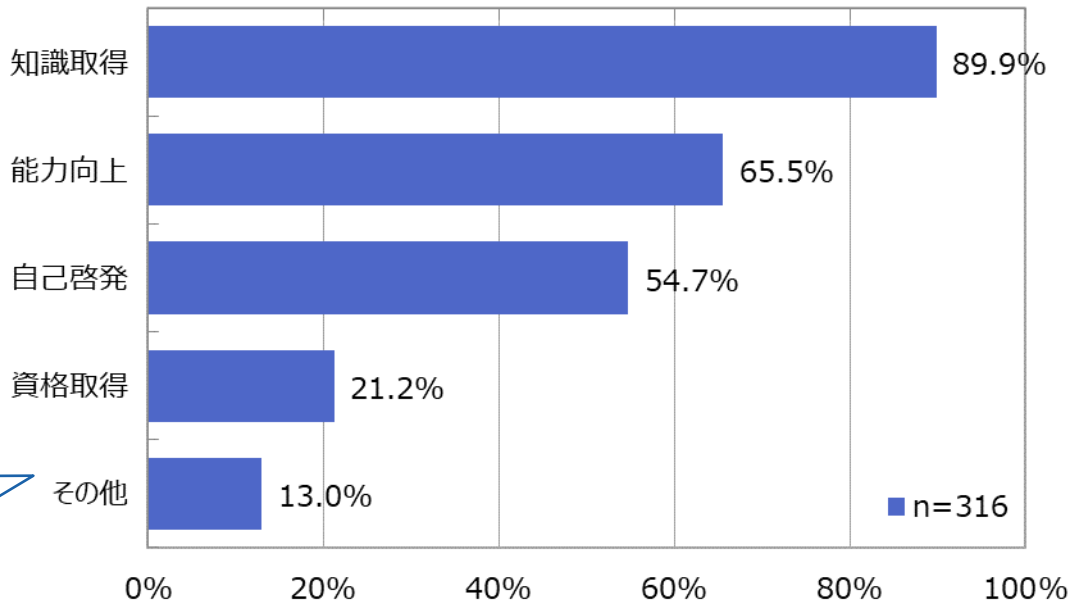


26. 病院経営管理士教育委員会では、病院経営管理士は病院経営に関する知識等、最新情報のアップデートが常に必要ではないかと考え、資格の認定更新制度（ポイント制の導入）を検討していますが、ご意見をお聞かせください。



V. 通信教育に関する考え

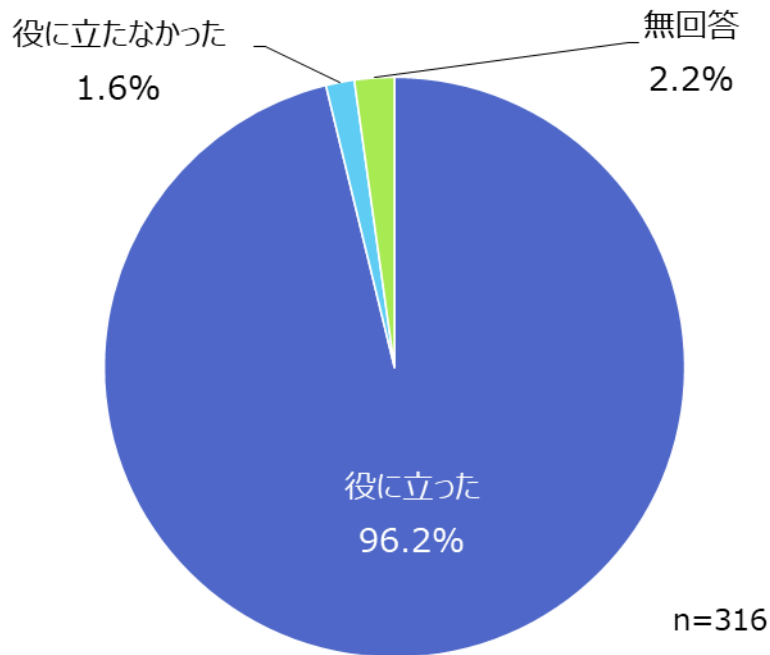
27. 病院経営管理士通信教育を受講する際に期待していたことは何ですか。 (複数回答可)



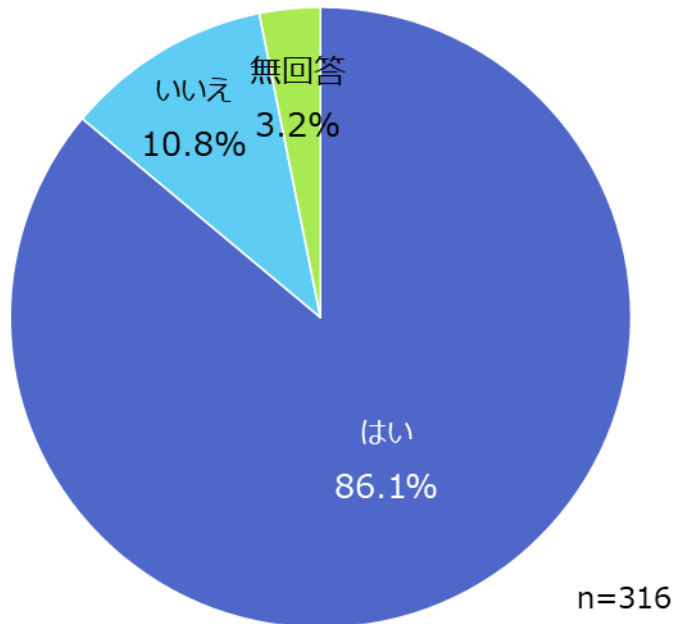
【その他の内訳】

- 同期生との交流、情報のネットワークづくり
11.1%

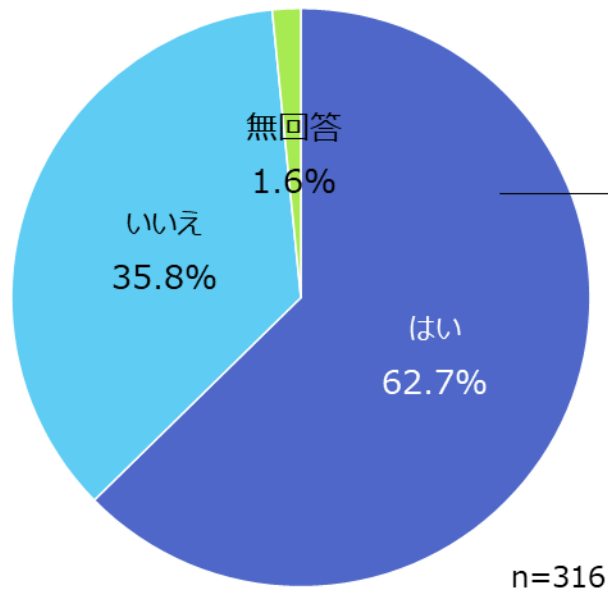
28. 病院経営管理士通信教育を受講してみているかがでしたか。
率直な意見をお聞かせ下さい。



29. 同僚や後輩に病院経営管理士通信教育の受講を勧めますか。

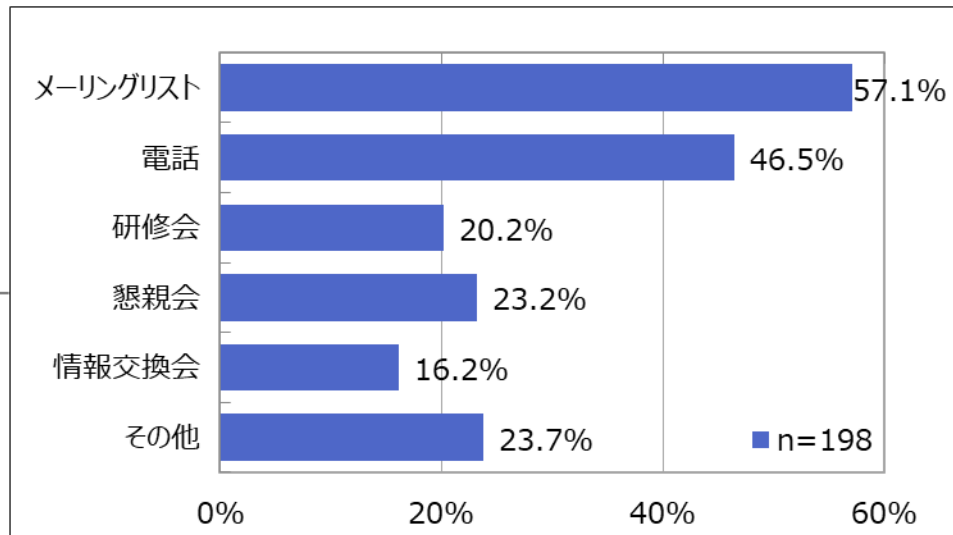


30. 卒業後に同期の方々との交流、持続的な繋がりはありますか。



31. 該当する交流の方法についてお答えください（複数回答可）。

【設問30で「はい」と回答した方のみ対象】



32-1.カリキュラム等に関するご意見・ご要望

【追加を希望する科目】

- ICT関連
- BCP
- 災害医療
- 人事、人材育成
- メンタルヘルス
- コーチングとアンガーマネジメント
- 対話術
- 医療リテラシー
- 地域医療連携
- 医療の質、経営の質
- 原価管理、資金調達
- BI（ビジネスインテリジェンス）ツール
- ISO 9001やJCIのマネジメント手法
- 最新のビジネスマネジメント
- SDGや健康経営など新しい分野 等々

【見直し等が必要とされる科目】

- 病院経営管理演習
- 病院施設・設備管理
- 病院建築論 等

32-2.スクーリング受講期間、授業方法（面接・Web）、レポートについて

【受講期間・開催地】

- 受講期間（2年、スクーリング年2回）について問題ありとした回答は約1割であり、概ね適切であると思われた。Web研修の利活用、集合研修との有効活用により受講負担、会場への移動負担の軽減を図るとの意見も多く認められた。

【授業方法】

- 授業内容については、約7割の回答で概ね適切であるとの回答があり、授業方法については、対面授業、特に同期の受講生とのコミュニケーション、ネットワークづくりが重要であるとの意見が回答の約3分の1を占めていた。
- 一方で、受講期間と同様にWeb・ITの活用による受講負担の軽減、レポート提出の利便性等の意見、対面授業との併用によるハイブリッド方式等についての提案がみられた。

【レポート】

- 概ね問題がない、必要であるとの意見が多かったが、レポートの量的負担や評価基準（卒論を含む）の明確化についての意見もみられた。

32-3.その他の意見・要望について〈主なもの(1)〉

【研修内容・研修方法】

- 研修等もWeb視聴できるものが増えれば良いと思う。
- 今回の新型コロナウイルス感染症の流行を受けて、感染管理はもう少し時間をとって良い科目かと思う。院内感染を防ぐためにどのように対策をとるか（ゾーニング、PPEの使用、スクリーニング、緊急入院患者の扱い、職員の移動、休憩室の考え方など）を教えてもらえると良いと思う。
- ディスカッションについて、病院の規模別にグループ分けをしていただくとより積極的な意見交換ができると感じた。
- 講義内容にレベル差があり、知識を得たいと考え参加したが、グループワークが多すぎると感じる。
- 病院経営管理士の資格取得は、自分の病院でのキャリアの集大成としてチャレンジした。病院の再整備のさなかでもあり、業務との両立はとても大変であったが、やり遂げることで大変自信につながった。後輩にも資格取得を薦めたい。新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、医療を取り巻く状況は大きく変化し、地域医療構想やICT化、デジタル化の進展など最新の医療動向を踏まえた講義やディスカッションができるプログラムを検討いただきたい。
- 受講資格に特に制限がないことから受講者の職種や年齢が多様で、将来的に病院の経営に携わる方と既に携わっている方が混在し、講義の内容が広く浅くなっているように思えるため、病院勤務経験年数を受講資格に加えるなど、もっと即戦力となれる病院経営管理者を目指した深い内容の講義とした方がよいと思う。
- 病院経営やマネジメントで特徴的な運用を行っている病院へ実際に訪問し、具体的な経営管理手法を学ぶ時間があっても良いのではと考える。自院を客観的な視点で評価できるようになるには有用であり、改善の糸口も見えやすくなると思う。
- 技術・理論・知識の追及が主であったと思われるが、人間として心を豊かにしていただけるような教育科目があっても良いと考える。
- 講義内容、講師に対する評価、評価結果ならびに業界動向に鑑みた更新を定期的に行う制度的枠組みが重要かと思う。
- 講義内容は常に新しいものに更新する必要があるが、専門分野以外の内容は、一昔前の知識では判断できないため、長期間継続している講義の場合には、特に注意が必要だと思う。
- 設立主体の異なる全国の病院を背景とする受講者ゆえに、研修成果の応用については必ずしも同じとは限らない。受講内容を自院の改善にどのように繋げるかという「目的意識」や「目標意識」の持ちようが受講成果を左右すると考え、受講に際してこの点を再度自覚できるようにレクチャーを望みたい。
- 全国から集まって研修する機会はそうそうありません。経営管理士通信教育とは趣旨に沿わないかもしれないが、経営に携わる職員は限られており、内部的には解決できずに悩んでいる方々は多いと思う。自分も含め、その方々を救うきっかけになる成功体験や失敗体験などの経営者の体験または、その解決策が受講できる時間があると助かる。
- 病院の運営および継続には、経営面とともに危機管理が重要と考える。災害対策、感染対策等のカリキュラムを強化していただきたい。

32-3.その他の意見・要望について〈主なもの(2)〉

【病院経営管理士資格の認知度・価値向上】

- もっと資格が社会に認められるような方策が欲しいと思う。
- 将来的には診療報酬改定での評価項目になる等の社会的地位向上を期待している。
- 日本の医療機関における病院経営におけるステータスとなるように、今後とも推進していただければと思う。

【卒後教育】

- ポイント制に対して、何かメリットを感じる事があれば良いと思う。
- 卒後研修会の開催もほとんど東京開催で平日でしたが、今後はweb研修を増やしてほしい。それと新しい情報をたくさんほしい。
- 数年に一度、同期生と集まり受講後の成果発表や最新トピックの講義などを受講できる機会などがあればよい。
- 卒後年数に応じて、知識をブラッシュアップできる研修があればうれしい。
- 同期生による卒後研修など、定期的に関係し情報共有できると良い。

【その他】

- 通信教育に参加し、自分の知らない知識を得たことや多くの同期生と知り合い、情報交換ができる環境ができたことは、何にも代えがたいことであった。今後も学習の場、情報交流の場として継続していただけることを期待している。
- 病院経営管理士会内でもメーリングリスト等を活用して情報交換できると大変有難い。
- 1週間の集中的なスクーリングは様々な点で有意義であった。
- 日本看護協会の認定看護管理者育成時に、この資格を取得していたことにより、サードの専任教員として看護管理者の研修にもかかわることができたことに感謝している。
- 研修を受けたことは、直接・間接に仕事に生かすことができている。体系的に経営の実践について学ぶ機会があることはとても貴重だと思う。
- スクーリング受講期間は、受講者同志とのふれあいの時間を持つことができ、仕事の悩みや経営の方向性について相談できメンタルが軽くなったことを思い出す。
- 病院管理者時代は年齢的に公私ともに多忙な時期でしたが、講義への集中とレポート提出に相当エネルギーを費やしたことが、自信にもなったと思う。同じグループの役職者の方々と交流したことが、刺激になったことは確かであり、自分の立ち位置を再確認する機会になり、その後の仕事に邁進することができた。

まとめ

病院経営管理士教育委員会では、今後の病院経営管理士通信教育（以下、本講座）の教育カリキュラムの見直しや病院経営管理士のあり方についての検討を進めるため、本講座の卒業生（旧カリキュラム卒業生を含む）を対象に資格取得後の病院経営への参画状況や職責、業務への取り組み姿勢等についての実態把握を実施することとした。調査内容は、勤務地・勤務先、勤務年数、役職等の基本情報ならびに業務内容に関する現況および病院経営に関する意識、生涯教育に対する意見等についてである。

集計結果では、本講座を卒業、資格取得したことに対して「役立った」、「同僚や後輩に勧める」と回答した割合が約9割を占め、教育成果を高く評価できるとした一方で、病院経営陣の一角として十分な力を活かしていない卒業生も相当数いることが分かった。

本講座のスクーリングについて、集合教育の間に醸成した受講生間のネットワーク、人間関係づくりが重要であるとの認識が高く、受講時の期待としても大きいものであった。また、Webの利活用についても一定の評価を得ており、対面とWebの利点を生かした教育カリキュラムづくりを進めることも重要であると思われる。

今後、病院経営の継続的な質向上、維持に繋げるため、病院経営管理士教育の発展に努めるべく、調査結果を有効に活用していきたいと考える。

設問（Ⅰ～Ⅴ）の調査結果

Ⅰ. 基本情報（2021年1月1日現在）

- 回答者の割合は、地域別は関東の23.7%が最多であり、年齢別では45～49歳および55～59歳の22.0%が最多、40歳代は35.7%、50歳代が40.8%であった。
- 卒後年数では、卒後10年以内が66.8%を占め、資格取得年数についても10年以内が68.7%であった。勤務先別では病院勤務者が81.0%、勤務年数は10年未満が25.2%、次いで20～25年未満が17.8%、中央値は18年であった。所属別では事務部門が80.7%に対して、診療、看護、メディカルスタッフ部門は2～6%であり、また役職者は74.9%を占めていた。
- 医療関連の資格については、資格なしが41.8%、医師、看護師、診療放射線技師がそれぞれ2～3%台であった。

Ⅱ. 現在の業務内容

- 業務内容は、経営管理（形成戦略、経営企画）が56.6%、次いで人事26.3%、総務25.3%であり、75.6%が「病院経営に携わっている」と回答していた。
- 病院経営に対する責任の範囲、関与の割合について、「病院全体の経営責任者、または準ずる立場として大いに関与している」が33.9%、「部門責任者として関与している」、「一部関与している」まで合わせると83.2%が病院経営に何らかの形で関与していた。業務への満足度は、「大変満足」と「満足」を合わせて72.8%であった。
- また、優先課題として取り組んでいる業務では、収益管理（増収・減収対策）が59.8%、人事労務（雇用・育成）が55.1%で半数を超えていた。
- 経営に携わった経験年数別では10年未満で48.3%を占め、うち5～10年未満が29.2%であった。

Ⅲ. 経営責任に対する考え

- 病院の経営陣の一角としての仕事、仕事への責任に関する設問では、経営陣の一角として「仕事をしている」が51.9%、「仕事をしたいと思う」を合わせて82.6%、仕事への「責任を強く感じる」が60.4%、「責任を感じる」が33.2%であった。
- 経営陣への道について、59.2%が「開かれている」、10.1%が「開かれていない」と回答していた。

Ⅳ. 病院経営管理士としての自己研鑽等

- 卒後（資格取得後）の仕事に対する姿勢、意気込み、取り組みについて、「変化あり」の回答が67.1%、「変化なし」が31.0%であった。
- 卒後の自己研鑽等のための病院経営に関する研修会等への参加について、「積極的に参加している」に「参加している」を加えた69.0%に対して、「ほとんど参加しない」、「参加したことがない」を合わせて29.1%であった。参加研修会では、日本病院会主催の日本病院学会、病院経営管理研修会が3割を超え、都道府県の病院協会・医師会主催セミナーが43.1%であった。参加頻度では、年2～3回が47.2%に対し、年6回以上が12.0%となっていた。
- 自己研鑽・スキルアップにかかる費用への勤務先からの支援・補助制度の有無については、「すべてに対して支援・補助制度あり」が55.0%、「一部に対して支援・補助あり」が37.2%、「すべて自己負担」が7.8%であった。

- 病院経営に関する最新情報の主な取得先の割合は、インターネットが81.6%、研修会が57.6%で回答の半数を超えていた。
- また、病院経営管理士資格の認定更新制度（ポイント制の導入）については、「賛成」30.4%、「反対」12.7%、「どちらともいえない」が54.4%であった。

V. 通信教育に関する考え（主な意見等）

- 通信教育を受講する際に期待していたこととして、知識取得、能力向上、自己啓発がそれぞれ5割を超え、資格取得の21.2%を大きく上回っていた。
- 通信教育の受講について、「役立った」との回答は96.2%であった。また、同僚、後輩に通信教育の受講を勧めるかについては、86.1%が「はい」と回答した。
- 卒後の交流があるとした回答は62.7%、交流の方法はメーリングリストが57.1%、電話46.5%、懇親会23.2%であった。
- カリキュラムについては、ICT関連、BCPをはじめとする災害対策、最新知見としてBI（ビジネスインテリジェンス）ツールなどのマネジメント手法に関する講義の追加や現講義の内容見直しについての意見が寄せられていた。
- スクーリングの受講期間、授業方法、レポート課題等についての意見（自由記載）では、受講期間（2年、スクーリング年2回）について概ね適切であり、Web研修の利活用、集合研修との有効活用により受講負担、会場への移動負担の軽減を図るとの意見も多く認められた。
- 授業方法については、対面授業、特に同期の受講生とのコミュニケーション、ネットワークづくりが重要であるとの意見が回答の約3分の1を占め、受講期間と同様にWeb・ITの活用による受講負担の軽減、レポート提出の利便性向上等についての提案があった。
- レポート提出について、概ね問題がないとの意見が多かったが、量的負担や評価基準（卒論を含む）の明確化についての意見もみられた。
- その他の意見要望では、受講生のレベル、職種等の多様化による受講要件の見直し、先駆的、特徴的な取り組みを行う病院の実習・見学、失敗・成功事例の学習、感染管理・危機管理のカリキュラム強化など、多くの意見があげられ、病院経営管理士の社会的地位向上への期待等の意見が寄せられた。

委員名簿

一般社団法人 日本病院会

担当副会長 仙賀 裕 茅ヶ崎市立病院 名誉院長

<病院経営管理士教育委員会>

委員長	中 佳一	社会医療法人社団三思会	会長
委員	池田 隆一	相澤東病院	事務長 兼 医療連携センター センター長
	木野 昌也	北摂総合病院	理事長
	佐野 廣子	浴風会病院	看護部長
	永易 卓	社会医療法人若弘会 本部	理事・局長
	正木 義博	済生会支部神奈川県済生会	支部長

<病院経営管理士のあり方検討委員会>

委員	飯村 秀樹	筑波メディカルセンター	診療技術部門長
	眞鍋 伸次	KKR高松病院	薬局長